

特集 「食と色」

ドレス・コード 今, 昔
Dress Code-Present & Past

寺西 千代子 Chiyoko Teranishi 元 外務省儀典官室

Former Protocol Office, Ministry of Foreign Affairs of Japan

1. 「ドレス・コード」(dress code)とは何か?

(What is "dress code"?)

- ◇「天皇・皇后両陛下に謁見する際、私の好きな『黒』のドレスでも差支えないか?—一国賓として来日した某国大統領夫人からの質問」
答えは▷喪服と間違えられるような黒一色でなく、柄などが入っていればOK.
- ◇「天皇・皇后ご臨席の迎賓館前庭に於ける歓迎行事の際、帽子や手袋は必要か?—別々の国賓夫人からの質問」
▷皇族方は着用されるが、お客様側は随意.
- ◇「今晚執り行われる宮中晩餐会に、ダイアナ王妃はティアラを着けられるかどうか?—宮内庁よりの照会」
▷当初女官からはティアラを着けられないと伺っていたが、迎賓館から車に乗り込まれた王妃の頭にはティアラが! 急遽宮内庁に訂正報を入れ、結果的には皇族方も全てティアラを着けられて晩餐会つつがなく開始.
- ◇「イブニング・ドレス用の長手袋を扱う英王室御用達の店はあるか?—宮内庁よりの照会」
▷ロンドン市内の老舗デパートで発見. 件の長手袋は古は白のキッド皮だったそうだが、最近では合成繊維. 袖なしのイブニング・ドレスには肘が隠れる長さの手袋が必要、飲食の際は手首のボタンを外して手首部分だけ出せる工夫が成されている.
- ◇「法皇様に謁見の際の女性の服装は?—バチカンを訪問された日本の要人からの質問」
▷黒の裾長ドレスまたはロング・スカート. ベール(白もあるが、バチカンでは黒)不可欠.
- ◇「米国大統領選を控え、ワシントンの政党幹部宅の後援パーティに招かれたが、パンタロン・スーツでも構わないか?—女性出席者から」
▷首都ワシントンの服装は米国の他の都市に比べ一般的に保守的. 今日でこそ、メルケル独首相や、クリントン米国務長官に見られるごとくパンタロン・スーツは昼夜通して正・略の場を問わず違和感を与えないが、私が外交官の卵だった40余年前には、ニューヨークですら女性がズボン! 姿でパーティに出ることは先ずなかった.
- ◇「法皇様に対する信任状奉呈の際、大使は燕尾服、ただしベストは白ではなく黒を着用願いたい. —バチカン儀典官の新任日本大使に対する説明」
▷ドレス・コードが厳格なのは外交官の世界. 燕尾服は本来夜の正装、ベストは「白」と決まっている. バチカン

だけ何故「黒」のベストなの? 否、燕尾服を昼間着る場合のドレス・コードはバチカンでなくともベストは「黒」とされているのだ.

外交官の在外報酬は高すぎるという批判に対し、「在外公館では衣装代もかかる」との反論がある. バチカンに赴任と決まった外交官は、先ず「燕尾服」一式(靴も含め)を調達しなくてはならない. 貸衣装では? 貸衣装屋、ましてや日本人の体形に合った貸衣装を見つけるのは在外では至難の業である. かくして任期せいぜい3年間のバチカン、かつてのドレス・コード「燕尾服」は「ブラック・タイ」へ、「モーニング・コート」は「ダーク・スーツ」または「平服」に簡略化している国が多い中で燕尾服を着る機会など未来永劫訪れないであろう若年外交官にしてみれば、かなりの散財となる.

以上は、私が40余年の外交官の仕事を通じて接した服装に関する質疑応答のホンの一例である.

ドレス・コードとは、つまり上記のような問題に表わされる「服装の規則」のことである.

2. 「ドレス・コード」は何故必要か?

(Why "dress code" is necessary?)

私は、3年前に外務省を定年退職し現在は一日の殆どをジャージーだけで十分過ごせる生活を送っている. 恐らくは大半の日本人にとってもドレス・コードが問題となるような世界は「カンケイナイ」のでは、ないだろうか?

しかもロンドンの老舗服飾店「アクアスキュータム」は破綻し、「ユニクロ」が全盛のこのご時世にドレス・コードを云々する意味であるの?・・・実は、私も半分くらいそう思っている.

だが、世の中こんなに変わってしまったのに、何故いわゆる礼服・式服(「燕尾服」とか「ブラック・タイ」)は昔の姿のママなのだろう? 芸能人ばりの結婚式や夜会は別として、燕尾服と言えば色、型、シャツ、ネクタイ等々一定の基準があって、公式の席にこの基準から逸脱した服装で現れる人は先ずない. 今日、燕尾服よりは着用の機会の多いブラック・タイもまた然り. ファンシー・タキシード(ブラック・タイの別称)などの名称の下、材質・色多種多様なものが創られているが、公的な行事では、ブラック・タイは判を押したように黒の上下、白のシャツだ. これはちょっと

と興味深いことではあるまいか？ なお、燕尾服やブラック・タイが何故「黒」なのか、という問題は諸説あって、これを追求する仕事は専門家にお任せしたい。

では、ドレス・コードは何故必要か？ 何よりもコードから外れること＝他の人とかけ離れた装束をすることは「居心地が悪い」から、「常識を疑われる⇒恥ずかしい」からであろう。

他方、「居心地が悪くもなく」「恥ずかしくもない」らしいコード違反者が目につくので帽子で一例を披露したい。

◇その1：現代の若者の中で帽子が流行だと聞く。私が教鞭をとる某大学でも、つば付き帽を常に被っている学生がいる(因みにこの学生は片耳ピアスもご愛用なのだ)。この学生に対する私の注意「男性は、室内では帽子は被らないものですよ」、更に「昔はね、エレベーターに乗り込んだ時、女性が中にいたら被っている帽子のツバに指をかけ、帽子を一寸上げ(脱ぐ)しぐさをして女性に敬意を表するのが紳士のたしなみだったのよ」。この注意の後、同学生は教室内で帽子を被らなくなった。エレベーターの話については「かっこいいな、僕もやってみようかな」という反応だった(実践しているのかどうかは未フォロー)。実は今から20年程前には、このような紳士が私の身の回りにも何人かはおられた。そのお一人、故真崎秀樹氏(昭和天皇のご通訳、アフガニスタン大使など歴任)は、私が最も尊敬する儀典の神様であられた。件の帽子の話は在りし日の真崎氏の思い出でもある。

◇その2：最近テレビで「北京訪問のキール南スーダン大統領と胡錦濤中国国家主席の会談」のニュース中、南スーダン大統領が幅広の帽子を被ったまま会談に臨んでいる光景が放映された。同大統領は歓迎行事でも、晩餐会でも帽子をト(頭)放さない姿だったところを見ると、余程の帽子マニアなのであるだろうか？

それにしても、中国儀典当局の「礼」を重んじる姿勢に、昔仕事の関連でかなり悩まされた経験のある私としては、中国側が今回の映像に無言なのを不思議に思っている。彼の地でも我が国同様、ドレス・コードやらエチケット・マナーなどは時代遅れになってしまったのだろうか。しかし、室内で男性が帽子を被ったまま会談するのは立派なドレス・コード違反、プロトコル違反である。プロトコルは特に他国との関係で配慮すべき儀礼であるが、ドレスが外交問題に発展する場合も多いのだ。

3. ドレス・コードを必要とする場面

(When do we need "dress code"?)

仮にドレス・コードが指定されていても「何でもあり」が現状である。「ブラック・タイ」の夕食会に招かれたので大枚叩いてロング・ドレスを新調したものの、殆どの出席者はフツのスーツや、ひざ丈のドレスだった」などは良くあるお話。ツアー会社からクルージングのディナーは必ずブラック・タイ(女性はロング・ドレス)と言いつつ、律

義に礼服に身を固めて船内を闊歩するのは、日本人だけ。外国人観光客は短パンにTシャツという光景も珍しくはない。

ドレス・コードの基準はT P O (Time, Place, Occasion) である。

Time:

◇時間 例えばモーニング・コートはその名の通り午前中(日中)、ブラック・タイは夜の行事の礼服である。が、日本ではこれらの時間的目安とは関係なく着用されることが多い。その点、日本の礼服(黒の背広)は他国では見られないものの、昼夜兼用、便利な日本的創造物である。女性の場合、金銀、スパンコールなどで装飾された衣服や透けた素材、襟繰り、袖繰りの開いた衣装を昼間は着ないものとされていたのも昔の話。

◇季節 昔観たキャサリン・ターナー主演の米国映画に、「Labor Day (9月の第一月曜日)を過ぎたのに、白い靴を履いてたことが許せなかった」という理由で女性を殺してしまう、という場面があった。冗談と思われるかもしれないが、古き良き社会(欧米だけでなく日本でも)では季節によるドレス・コード(色、素材)が守られていた。

Place:

◇気候 クールビズ、紐ネクタイなど土地の特性を配慮した日本の創作物もある。イタリア(南欧)では、夏のサンダルに女性はストッキングなし、公式の場所でもサンダルはペディ・キュアを施した美しい素足に履くのが普通である。他方、同じく高温多湿の米国ワシントン社会(恐らく日本でも)では、生足はひんしゅくを買う。

◇社会 ドレス・コードを厳格に守られているのは、先ず王宮、外交サークルであろう。中でも、日本の宮中、私にとっての最後の任国であるバチカンはその最たるところである。宮中行事に出席する外国賓客からは宮中のドレス・コードについて必ず質問を受けた。しかし、その宮中行事も、昔は「燕尾服」とされてきた晩餐会のドレス・コードを客側の意向によっては「ブラック・タイ」にすることが可能等、簡素化に向かってきている。バチカンについては前項1. の通り外交団にとっては「燕尾服」着用行事が存続している。西欧諸国でも簡素化が進んでいる中、20年程前在勤したフィンランド(服装については極めてカジュアルな国)で、ドレス・コード「燕尾服」と指定された行事が結構あったのは意外であった。

Occasion :

◇主催者 主催者の社会的地位、職業に応じて適切な服装をする。招待状にドレス・コードが記されていない場合は、主催者側に訊くなり、迷う場合はドレス・ダウンよりもドレス・アップの方が主催者側に対して失礼にあたらない。

◇臨席者 皇族、王族、高僧などが臨席される場合は、ドレスのみならず、如何に振舞うかも心得ておくこと安心。(例:courtsey 一方の足を引き跪いて、身をかがめ謁見する習慣など)